

教育目標: 自ら考え 判断できる人(確かな学力の定着)、心身ともにたくましい人(健やかな体の育成)、心豊かな思いやりのある人(豊かな心の醸成)、互いに協力し 創造できる人(輝く未来の創造)

目指す学校像: 授業を通して互いに高め合える学校、生徒の人格と未来が尊重されている学校、校風「団結・克己・責任」を継承・発展する学校、大規模災害を想定した防災教育の充実が図られている学校

目指す生徒像: 人として大切なこと、社会に出た時の基本を身に付けている生徒 超スマート社会 Society5.0に向けて、自ら学び、世界の平和を願い、国際社会に活躍できる生徒

目指す教師像: 生徒に達成感を味わわせ、確かな学力・自己肯定感を育ませることのできる教師 必要に応じて、毅然とした態度で指導にあたることのできる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
学校の居心地感	人権尊重の精神を基調とした教育活動を推進し、豊かな心を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い人間関係を築く力、協力して学級や学校の生活の充実・向上を図る力の育成 ・「特別の教科 道徳」の授業内容の充実と評価の工夫 	ベップトークを日常的に実践し、前向きな人間関係の形成を行う。アセスを実施し生徒の居心地感を把握する。	3	/	4	/	居心地感を良いと感じている生徒は88.1%で前年度と同数値を維持、不登校出現率は2.4%で前年度より2.2%減っている。	不登校生徒、新たに不登校傾向が出ている生徒の数がともに減っており、ベップトークやアセスの取組に一定の評価がみられる。SCやSSW、教育相談室等との連携を取りながら、さらに個々の状況に寄り添った対応を継続していく。
			内容と共に評価方法を工夫し、自分の考えをもち、議論する道徳へと授業改善を行う。	3	/	4	/	道徳の授業に積極的に参加できた生徒は91.2%と意欲的に参加している。	自分の意見を考え、他人の意見に耳を傾け、議論する道徳はどの学級でもできてきているが、さらなる内容の充実と指導方法の工夫が必要である。
学びに向かう力	各教科の見方・考え方を明確にして、確かな学力を定着し、健やかな体を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探究的活動、主体的・対話的で深い学びの実現 ・読書習慣の定着による、学びの基礎となる読解力の向上 ・運動の日常化による体力・運動能力の向上 	タブレット端末を活用した、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を行う。	2	/	4	/	タブレット端末を使った授業はかなりの頻度で行われるが、81.6%の生徒はそれを肯定的に捉えている。教員のタブレット活用は、さらに内容を深めていく必要がある。	教員の授業改善意識は高い。タブレット端末の活用が開発途上である教員も多く、若手教員を中心に校内OJTや研修を通して学校全体で組織的な活用方法の開発に取り組んでいく。
			学校の図書館司書・司書教諭を活用し、読書活動推進のイベントを充実する。	—	/	—	/		
			体育健康教育推進校の取組み及び年3回の体力テストの結果を工夫し運動の日常化を図る。	3	/	4	/	体力テストの結果は昨年度の結果と同等で、全国平均を上回った項目は8割程度と市内中学校では最も良い結果を得ている。今年度より2年間、東京都体育健康教育推進校として取組んでいく。	東京都体育健康教育推進校の取組として元プロ野球選手や専門家講師を招き、体幹を鍛えるコーディネーショントレーニングや体力向上プログラムを取り入れ、年3回実施する体力テストへ個々の目標を立てやすくしていく。
未来に向かう力	保護者・地域・関係機関と連携した取り組みを充実し、輝く未来を創造する力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に貢献しようとする態度、自治能力の育成 ・キャリア発達に関わる諸能力の向上 	青少年健全育成北地区委員会、公民館、小学校と連携した各種取組みへの参加を推進する。	4	/	4	/	新型コロナウイルス鎮静により、地域貢献意識や地域行事参加実績が伸びた。地域行事に参加できた生徒が58.6%と昨年より10%向上した。地域貢献したいと考えている生徒も87.2%と高い。	感染状況が落ち着けば、地域貢献意識は高いため、さらに参加状況も増えるはずである。今年度9月に開催された並木公民館主催「子ども祭り」には吹奏楽部と科学研究部が部として参加、他の生徒もボランティアとして参加している。
			部活動、職場体験学習など指導を充実し、将来への見通しをもたせる。	3	/	4	/	活動への参加を楽しんでいる生徒は93.1%と将来へ向けての前向きな取組が昨年度よりさらに肯定的な回答となっている。	今年度、職場体験が3年ぶりに実施される。職業調べなどの事前事後学習も含めてキャリア教育を確実に実施していく。